

第 31 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事概要

日時：2021 年 9 月 29 日（水）午後 6 時から午後 7 時まで

場所：愛知県本庁舎 6 階 正庁

1 挨拶

大村知事：

本日は、第 31 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議にご出席いただき、感謝する。

本県では、8 月 27 日から 9 月 30 日までの 35 日間、緊急事態宣言による緊急事態措置を講じてきた。不要不急の外出の自粛、飲食店等への営業時間の短縮要請、酒類の提供の取りやめ等の要請をし、感染防止対策の徹底に努めてきた。その結果、感染状況は 8 月 27 日に過去最多の 2,339 人を記録した後、しばらく 2 千人近いところであったが、9 月に入ってから減少傾向が顕著になり、7 日間平均の新規陽性者数は、9 月 24 日にはステージⅢになった。

本日の新規陽性者数は 155 人であった。7 日間平均も約 180 人となり、160 人がステージⅡとの境なので、今週末にはステージのⅡになると予想している。

本日の入院患者数については 452 人であった。入院患者数は 344 人がステージⅡとの境で、入院患者数の減り方、増え方は少し後を追いかけていくという傾向が今回も見られる。

第 5 波においては、新規陽性者数が 2,339 人となり、自宅療養者が 1 万 9 千人となったため、第 5 波の波が一番大きかったと感じている。しかし、重症者は第 4 波よりも少なく、ワクチン効果だと思っている。

ただ、1 回目のワクチン接種者のうち 10 代から 30 代の方の接種率は、現時点で数字上は 50%に届いておらず、感染の可能性が高いため、若者の接種率を上げることが、今後のポイントである。

一方で、愛知県の大規模接種会場のうちバンテリンドームと豊橋の会場以外では空きが出ているため、5 会場で予約なしでのワクチン接種を 1 週間前から始めたところ、昨日は、1 日 3,000 回接種した実績がある空港ビルでの接種者が 750 人であった。また、栄も空きが出ているとのことである。土日は予約が埋まるが、平日は空きがある状況のため、ワクチンが行き渡ってきたが、一方で、ワクチン接種に行かない若者がいる状況があると感じており、今後、若者へのワクチン接種の周知をお願いしたい。

昨日、国が 19 都道府県に出していた緊急事態宣言とまん延防止等重点措置を

全部解除したため、10月1日からの17日間、愛知県嚴重警戒宣言とし、県独自の規制とさせていただきます。

飲食店の営業時間は、県の認証を受けた店は21時までとし、酒類の提供は20時までとし、認証を受けていない店は20時までの営業で酒類の提供は19時半までという形とする。

大規模商業施設の営業時間は21時までで、イベント・行事は50%の定員で1万人のアップーという形とする。

これから秋冬となり、必ずまたリバウンドがあると思うため、引き続き、感染防止対策の徹底と、医療体制の確保に努めていく。

オール愛知でこの新型コロナウイルス感染症を克服し、一日も早く日常を取り戻し、社会経済活動を回していきたい。よろしく願います。

2 議題（1）新型コロナウイルス感染症対策について

大村知事：

まず、新型コロナウイルス感染症対策について説明する。

資料1は、緊急事態宣言を解除し、嚴重警戒宣言に移るということで、昨日付けで、私から県民の皆様メッセージを出させていただきました。

資料2では、10月1日からの嚴重警戒宣言の内容について説明されている。今までは20時以降の外出自粛であったが、国の基本的対処方針に合わせて、自粛ではなく、少人数で、混雑している場所や時間を避けてほしいという方針となった。また、県をまたぐ移動の自粛をお願いしていたが、国の方針と同様に、移動することは構わないが、感染防止対策の徹底をお願いする形となった。

資料3の県の取組として、医療提供体制の強化、ワクチン接種の促進、認証制度をしっかりとやっていきたいということである。

パネルの資料は、嚴重警戒宣言の内容を簡略化したものである。

参考資料1が感染者の年代別内訳で、裏面が症状別状況、次が検査件数である。また、A3の資料は過去7日間の指標の数値であり、一番左下の新規陽性者・入院患者・重症者が全てステージⅢとなっている。高齢者の感染者もステージⅡとなっている。

参考資料2が、ワクチン接種状況の一覧表であり、毎週水曜日の朝に、企業・大学での職域接種・職場接種の数字の聞き取りをしており、その数字を載せている。職場接種が、1回目が74万8千回、2回目が57万9千回で、全部の合計が、1回目が538万回、2回目が449万回となっている。実際の接種者については、職場接種はもう少し多いと思っている。2回接種をしたのが59.4%となっているが、なかなか聞き取れない分もあるため、実際は約62%であると思う。

12 歳以上では、70%に近い方が 2 回接種しているが、接種をしても感染するということである。

年代別ワクチン接種率であるが、医療従事者と職場接種の数字が入っていない VRS の登録だけのものであり、1 回目の接種を見ると 10 代から 30 代が約 50%前後で、これから接種を進めていくことになる。

参考資料 3 は、妊産婦への予約なし接種を 8 月 23 日から 1 か月行い、接種者が 1 万人を超えたという内容であり、これは結構お役に立てたと思っている。

参考資料 4 は、予約なし接種で 1,300 人が昨日までに接種しているという内容である。

参考資料 5 が、今日付けで医療機関の皆様へ通知を出させていただいたが、特に、8 月 25 日付けで、2 か月程度の緊急的な対策として、医師が延期可能と判断した入院・手術の一時延期としていたところ、今回、緊急事態宣言解除であるため、延期を 9 月 30 日までとさせていただき、10 月 1 日以降はその延期をしていた様々な手術を行っていただきたい。

なお、9 月 2 日付けで約 1 か月間のお願いをした、一般病床からの確保病床への転換について、各病院に大変な無理をお願いしているが、10 月 17 日の厳重警戒宣言の期限まで、この受け入れ体制は維持していただきたいとお願いをする。

以上の内容等で、10 月 1 日から 17 日までの 17 日間、厳重警戒措置を講じるため、よろしく願います。

(有識者・関係団体、政令市・中核市意見)

医療専門部会 長谷川部会長：

資料に症状別状況があるが、第 3 波、第 4 波、第 5 波を比較すると、第 5 波では、感染者数は第 3 波、第 4 波に比べて約 3 万人増えて 5 万 3,000 人弱であり、そのうち中等症は 500 人増加している。一方で、重症者は、300 人少なくなっており、約 400 人となっている。

また、検査陽性者の状況の資料に、第 5 波と第 4 波の死亡者数が書いてあり、これを見ると、第 4 波の死亡者数は 411 人に対して、第 5 波では約 300 人減って 115 人となり、明らかに状況が変化しているということが分かる。これは、ワクチンの効果による重症化と死亡率の抑制の効果であり、ワクチン接種体制が整備され、積極的に取り組まれた成果と評価している。

今後の予測については、大変難しい。多くの諸外国で感染者数が減少しており、新たな変異株の出現がなければ急激な患者数の増加はないと思っているが、制限の解除を進めているイギリスとアメリカは、現在は 1 日平均、100 万人当たり 400 人の新規患者である。愛知県で言えば 1 日 3,000 人の新規患者の

発生に相当する。ドイツ、フランスでは100万人当たり95人であるため、愛知県で言えば1日約700人の患者が発生していることになる。直ちに愛知県が同じ状況になるとすると、第5波と同じような状況になるため、医療体制や社会の受け入れを考えると段階的に解除を進めていく必要性がある。

一方、欧米ではこのような状況の中でも、医療崩壊や医療ひっ迫の情報が伝わってこないが、その理由としては、死亡者数で見るとドイツが100万人当たり0.7で、フランスが1.0で、イギリスが2.0である。日本は100万人当たり0.4で、人口が1億2000万人とすると50人ということになるが、ワクチン効果による入院率、死亡率の低下が、功を奏していると思われる。

この状況から見ても、新型コロナウイルスと社会との共存の模索をするフェーズに入ってくるが、規制の解除後に、イギリスの例を見ても一定の新規患者数の増加は避けられないと考えられる。被害を少なくするため、これまでのマスク着用、アルコールによる手洗い、ソーシャルディスタンスを取るなどの基本的な感染対策を、引き続き日常生活に取り入れることが必要である。

また、今後の大きな変化としては、今までは患者の重症者対応に力を入れざるを得なかったが、状況が変わってくる中で、国も検査キットを自由に薬局等で販売して、自由に検査ができる体制を考えているということである。

行政としては、検査体制を一層整備し、体調が優れないと思った人が自由に検査できることで、早く患者を見つけて自宅待機に導くというような、保健衛生学的な変更が重要である。

医療については、ワクチン接種の有無にかかわらず、デルタ株は感染する。ワクチン接種者は症状が軽いため、気付かず他人への感染を起こしている。病院や介護施設のクラスター発生は多く、院内感染対策の重要性が改めて強調されているという状況であり、社会の皆様方には本当によくご理解いただきたい。医療機関においては、感染対策に引き続きご努力いただくことになる。

病床確保については、ワクチン効果等で新しいフェーズに入ると思うが、第5波での課題を振り返り、議論できる場を設けて、愛知県の今後の病床のあり方を検討していきたい。

大村知事：

病床確保等について、今後ともご指導をお願いしたい。検査体制については、9月14日から若者の無症状者に対するPCR検査を栄で行っており、検査件数としては1日約100人で、累計で1,325人に行い、陽性疑いが8人であった。その方々には連絡をして、医療機関への早めの受診を推奨している。注意喚起のため、引き続き約2か月は行うため、よろしくをお願いしたい。

愛知県医師会 柵木会長：

9月になり、急激に感染が落ちてきていることを実感しており、この時期に、緊急事態宣言を解除することは妥当である。第4波の時は、緊急事態宣言の出口としてまん延防止等重点措置をとったが、今回は緊急事態宣言後、まん延防止等重点措置を経由せず県の厳重警戒宣言となり、大人数での飲食を避けるという規制のみが残ったが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の効果をもっと検証する方法がないかと思っている。

急激な感染者の減少の原因について、緊急事態宣言等により人流が期待したほど減っていないにも関わらず、感染者が激減したことはワクチンの効果である。年代別のワクチン接種割合と感染率の相関関係を見ると、よりはっきりすると思う。

10月中旬までには、ワクチンが県民の約9割の量が供給されると聞いている。現在の接種スピードから考えると、順調に行けば、11月中には2回目接種の割合が7割を超えてくると思っている。

第6波は必ず来ると言われているが、感染者がどのように拡大するか、重症者割合がどうなっているかということ予測することは難しいと思う。これまでの範囲内であれば、十分対応が可能だろうと思うが、第5波を超える大波や、毒性が強くなれば、また第5波と同じことを繰り返して、さらなる病床確保を各病院にお願いすることになる。

病床確保を行うことについて、何が問題なのかを明らかにする必要があり、確保病床を増やすことが一般病床の機能にどの程度影響するかを定量的に判断する手段がないかと考えている。各病院に対して、ただ増床を依頼するだけでは、余りにも策がないと感じる。今までの経験を分析して、数値化できれば、数値化後は看護師の配置等を中心に検討したい。

状況が落ち着いているこの機会に、データ等をしっかりと確認して、当事者間で検討していきたい。

大村知事：

検証について、どういう形で効果的にやれるか、組み立てていただいてご教授いただけたらありがたい。引き続きよろしくようお願い申し上げます。

愛知県病院協会 伊藤会長：

新規感染者が減少してきていることと、ワクチン接種が普及しており、明らかな方向性が見え始めた傾向があるが、ただその中でも、一定割合の重症者が発生しており、その方々への病床確保は非常に大きな課題である。

現在、全国の緊急事態宣言が終了しているが、厳重警戒宣言が発令されることは非常に意味があることであり、これからの2週間で非常に重要である。緩んだ体制により感染がどのように再拡大にしていくなかを十分に確認し、再度、規制強化することを、ぜひ頭の中に入れてながらお進めいただきたい。

愛知県病院協会は、厳重警戒措置の実施中は現状の最大確保病床数を保ち、万が一感染が再拡大した場合は対応可能な状態を堅持する予定である。

一方で、これからの季節は、循環器関係の一般救急疾患が急増する時期である。急性疾患等を含む一般病床数の確保が、病院にとって重要な課題である。

新型コロナウイルス感染症患者数の着実な減少を十分に確認した上で、今後必要とされる一般病床の確保と、新型コロナウイルス感染症患者の即応病床のバランスが、これからの地域医療に大きな影響を与える。

医療体制が混乱する可能性も十分にあり、第6波の際に救急一般医療等の制限を起こさないため、十分なデータに基づく専門家の協議を行い、データに基づく推測をして、県から各病院に対し適切な即応病床数の割り当ての指示をしていただきたい。

万が一、急激な感染再拡大が起これば、病院協会としても、これまでの対応と同様に、場合によっては一般医療の一部制限をしてでもコロナに対応していく方針ではある。今後、県の担当部局と連携を強化して進めていきたい。

大村知事：

今後、確かに一般救急医療を始め様々に重篤な感染症も増える。秋冬はそういう時期であり、感染症も増える時期であるため、病床確保と、救急一般医療とのバランスをどう取るかを引き続き相談させていただく。

名古屋商工会議所 内田専務理事：

医療体制の維持に全力を尽くしていただいている医療従事者を始め、愛知県、各保健所など関係機関の皆様に感謝を申し上げます。

緊急事態宣言が解除されること自体は大変ありがたいが、感染拡大が懸念される行楽シーズンや冬場を前に、依然として慎重な行動が必要であり、再度医療体制がひっ迫することは避けなければならない、厳重警戒措置で段階的に緩和することはやむを得ないことである。

企業の景況感について、製造業と非製造業の間で非常に格差がある。度重なる経済活動の抑制により、飲食、宿泊、イベント、観光業などを始めとした事業者は、手元資金が減少し、すでに体力の限界に達している。これらの業種にとって、経済活動正常化に向けた第一歩ということで、期待をしている。引き

続き、営業時間の短縮に協力しながら、事業や雇用を維持していこうとしている事業者に対して、協力金を始めとする、十分な支援をお願いしたい。

しばらくはウィズコロナの継続を前提とし、感染者の減少傾向を維持しながら、ワクチンの接種証明や検査キットを活用し、行動制限の緩和を進め、順次、経済活動の正常化を果たしていきたい。

当面、十分な医療提供体制の確保に併せて、抗体カクテル療法などで重症化の抑制を図りつつ、11月を目途としている希望者へのワクチン接種を着実に進めるようお願い申し上げます。

特に、若年層を中心とした世代にワクチンの有効性と安全性の周知に努めていただき、ワクチン接種の早期実施を着実に実行するとともに、県民が感染防止への気を緩めないよう、自覚ある行動の呼びかけを今一度徹底していただくようお願い申し上げます。

大村知事：

経済活動との両立はしっかりとやっていきたいため、よろしく願います。ただ、一度に解除するとまたリバウンドしてしまうため、段階的に解除させていただきたい。このような思いもあり、今回、期間を10月半ばとした。国は1か月を目途としていたが、少し長いと感じるため、10月半ばに再度状況を見て判断する。引き続きよろしく願います。

中部経済連合会 小川専務理事：

医療関係、保健関係、県関係の皆様にご改めて感謝を申し上げます。これで終わりという訳ではないため、今後ともよろしく願い申し上げます。

ワクチン接種について、若者の接種を会員企業にも改めてPRする。

行動規制の緩和を、状況を見ながら段階的に進めていくことについて、妥当だと感じる。また、今回の措置は妥当だが、少し先を見たアクションも少し考え始める時期に来ていると思う。

例えば、国内観光のPR等であるが、全国各地でPRの準備が進められつつあり、愛知県も出遅れては問題だと思う。特に観光関係の業者は大きな影響を受けており、緩和やPRに大きな期待をしていると聞いている。ジブリパーク建設も順調に進んでいると聞いており、少し先にターゲットを置いた観光PRについても、医療とのバランスを見ながら、ご検討いただきたい。

また、営業時間の短縮に協力した飲食店等への協力金について、まだ1度も協力金が振り込まれたことがない店舗があると聞いている。詳しく聞くと、このような店舗の共通点は、過去に申請ミスがあつて再度申請している点がある

とのことである。こうした理由があるものの、ランニング資金が底をつくことは、存続に関わる大きな話であるため、ご配慮いただきたい。

大村知事：

飲食店等への協力金については、愛知県は他の大都市圏に比べて迅速であると思っているが、適切にやっていきたい。

観光のPRについては、緊急事態宣言が解除になり、県の厳重警戒宣言になったことで、県を跨ぐ移動についても、今までは控えてもらうお願いをしていたが、今後は感染防止対策に気をつけながら行っていただきたい。

県内の旅行を含めて全て止めていたが、できるだけ早期に、近場の県内旅行への県民割引を再開するため、準備を始めている。

また、全国知事会から国への要望でもあるが、私ども以上に観光が主力の県だと、隣県への観光旅行も、Go Toトラベルで応援してほしいとの要望が出ている。まずは県内から始め、その後隣県という形で、やっていくと考えられる。こういったことを、きめ細かく行っていく。

愛知県経営者協会 岩原専務理事：

緊急事態宣言が解除されたことについて、行政、医療関係者の皆様の努力に感謝を申し上げたい。以前と同様のリバウンドが起きないように、行動変容・行動緩和が非常に重要であるため、我々も努力していきたい。

企業活動については、引き続きテレワーク、時差出勤、休暇の取得、職場でのマスク、手洗いなどの徹底をし、出勤者の抑制に努めていきたい。

昨日、企業の人事担当者と意見交換をしたが、現在は特に若い世代のワクチンの職場接種が佳境を迎えており、引き続きしっかり取り組んでいきたい。

新型コロナウイルス感染症との共存は長期に渡るため、感染対策と経済の両立に向けた取組について、引き続き行政の支援をよろしく願いしたい。

大村知事：

職域接種について、終局に向かっていると思うが、1人でも多くの方に接種していただけるようお願いしたい。

なお、愛知県での職場接種について、290件の希望があった全ての企業・大学で始まった。対象人数は124万人だが、国からのワクチン供給の遅れにより接種のスピードが落ちており、124万人ではなく約80万人で止まると予想している。ワクチン接種も含めて、今後ともよろしく願いしたい。

日本労働組合総連合会愛知県連合会 中島副事務局長：

オール愛知の取組によって緊急事態宣言の解除までこられたことに対し感謝を申し上げますとともに、現在も新型コロナウイルス対応にご尽力をいただいている医療関係者、保健所、業者の皆様へ改めて敬意と感謝を申し上げます。

第5波の収束後、リバウンドをさせないためにも、社会的に制限を緩めていくことについては、引き続き協力をしていきたい。

一方で、県民も事業者の方も緊急事態宣言の解除という言葉や、感染者数が最近大幅に減少していることや、ワクチン接種者が増えているということで、既に安心して居る方もいるのではないかと思います。

このような中でしばらく制限を続けていくため、制限の内容や、基本的な感染対策の重要性について、県民・事業者に対して、より一層の理解活動、周知徹底に取り組んでいただきたい。

また、連合愛知としても引き続き様々な形で周知徹底をしていく。若者へのワクチン接種の呼びかけについても、引き続きやっていく。

大村知事：

若者の、特に働いている方々へ、1人でも多く1日でも早くワクチン接種を行うことが重要である。よろしくようお願い申し上げます。

愛知県市長会 相津事務局長：

緊急事態宣言は解除されたが、第6波は必ず来ると思っている。また、中長期的には感染拡大は反復すると言われており、自治体としては、まずは2回目のワクチン接種を早く完了させることが大事だと認識している。

この実情に合わせて、国から、3回目のワクチン接種体制の準備を開始する要請をされている。

また、今後の行動規制緩和の中身について、少し先の話かもしれないが、経口治療薬の早期開発等への期待があり、年末や年度末、さらには来年度の事業計画を考えていかなければならないため、どのような展望を考えて計画作りができるかが大変気になる。

今後も、必要な対策を国・県・関係者と連携をとって対応していきたい。

大村知事：

2回目のワクチン接種の完了に向けて、よろしく願います。

また、医療提供体制の確保等についてはしっかり連携していきたい。中学生のワクチン接種推進についても、またよろしく願います。

愛知県町村会 宇佐見事務局長：

ワクチン接種を始めて相当な効果が出てきており、行動制限を段階的に緩和することとなるが、ウイルスはなくならないため、今後は共生する中で、第6波や第7波が、なるべく遅く、また小さくなるように対策する必要がある。

特に若者へのワクチン接種を進めるということで、受験生への優先的な接種という話もあるため、しっかりとやっていきたい。

また、3回目のワクチン接種やワクチン・検査パッケージについても、今後話題になっていくと思われる。これらについて、まだ詳細が明らかになっていないが、町村の業務と関連が深いため、しっかり県と連携して進めていく必要がある。さらに、秋冬が始まるため、来年度の事業展開を各町村も進めていくことになる。

元気のある愛知を少しでも進めていくため様々な種蒔きをしていく中で、県とベクトルを合わせて町村が来年度事業を組み立てていけるよう、しっかり情報共有して進めていきたい。

大村知事：

引き続き、しっかり足並みを揃えていきたい。

名古屋市保健所 医監：

名古屋市は本日66名の陽性者を発表し、10万人当たりの1週間合計が25.5人であり、国の基準ではまだステージⅣの値である。

年代別に見ると、10代から20代の大学生の世代までで、下げ止まりの傾向がある。来週以降で、この世代を中心に発生を抑える対策が必要になってくると考えている。

名古屋市内の新規感染者の数が多いため、下げ止まりにならないよう対応していきたい。

大村知事：

名古屋市が開催している大規模接種会場の予約は、空きが出ている状況か。

名古屋市保健所 医監：

少しずつ枠が空き始めているため、ぜひ多くの方に接種していただきたい。

大村知事：

しっかりとPRしながら進めていきたい。

豊橋市保健所長：

8月末に新規感染者数がピークを迎えた第5波は、9月において急激に減少した。年代については、20代から40代が58%で、10歳以下が23%を占めており、この辺りの年齢層が中心となっている。

直近7日間の新規感染者数の平均が7.4人で、1週間の人口10万対新規感染者数は14人となり、ステージⅡとなった。

入院患者数はステージⅢであるが、最近ではロナプリーブを用いた治療が市内の数か所の病院で始まっており、1泊2日もしくは日帰りで入院されて治療を受ける患者が出てきている。

ワクチン接種については、ようやく県の大規模接種会場に若干の空きが出る状況になってきた。

今後は2回目接種の枠についても確保して、2回接種をきっちりと終わらせる体制も準備していきたい。

また3回目接種の体制についても、国から情報提供をいただき体制を準備していきたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

岡崎市保健所長：

新規感染者数について、9月1日の120人をピークに現在は減少傾向となっており、先週からは新規感染者数が一桁の日も見られるようになった。第4波の間の新規感染者数は1,062人であったが、第5波の間の新規感染者数は、2,564人で2.4倍となった。

年代別で見ると、20代が24%を占め、10代から40代までが全体の4分の3を占めている。

第5波ではワクチン接種が進んだこともあり、65歳以上の患者の比率が4.4%まで下がった。また新規感染者のうち91%がワクチン接種なしの方で、5%の方が1回接種を済ませていた方であった。

症状については、無症状と軽症が99%で、中等症と重症が1%となっており、重症者は中等症の方の約10分の1という状況であった。

死亡者について、第4波の14人に対して第5波で6名となり減少している。

療養状況について、自宅療養や自宅待機の方が第5波のピーク時には、800人弱であったが、最近では30人弱である。

管内のクラスターについて、8月は4件あったが、9月に入ってから発生がなく、急速に安定してきている。

ワクチン接種について、保健所管内では、県が2か所でワクチンの大規模接種会場を設置していただき、9月29日現在の接種率は1回目が75%、2回目が約60%であり、順調に進んでいる。

一方、治療について、抗体カクテル療法が始まっていることと、内服薬の新薬の治験が始まると聞いているため、その効果に期待している。

また、引き続き、特に接種率の低い10代から20代、40代への世代にワクチン接種を呼びかけるとともに、日常の感染防止の重要性についても働きかけていきたい。

大村知事：

引き続き、若年層への働きかけも含めて、よろしく願いしたい。

一宮市保健所長：

中核市となった4月1日から現在までの陽性者数の合計は3,455人であり、人口38万人の0.9%が感染している状況である。新規陽性者数については、7月15日週は8人であり最低ラインであったが、その後増加し、9月2日の週は574人となり、第5波では2,406人の新規陽性者数となった。

入院患者について、第4波の時は最大72人の一宮市民が入院させていたが、第5波は最大84人の入院があり、9月27日では35人の入院数に減っている。

自宅療養者について、1日に110人から120人近い新規陽性者数であった頃は最大450人近い自宅療養者がいたが、今日時点では59人と減っている。

また、9月27日時点での宿泊施設入所者数は9人である。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

豊田市保健所長：

新規陽性者について、8月の第4週を発生のピークとし、その後徐々に減少していき、先週の土曜日以降は1日1桁となった。昨日現在で、直近1週間の新規陽性者は67人で、人口10万人当たり15.9となっている。

また、昨日現在で入院患者が14人、全療養者数は91人で、市内の感染状況は落ち着いてきた。年代別では、最近の傾向として、第5波初めには非常に多

かった 20 代の割合が減り、10 歳未満の割合が増えてきており、直近の 2 週間では 2 割弱となっている。

ワクチン接種については、9 月 11 日から市の集団接種を再開しており、昨日時点での VRS による接種率は、65 歳以上の 1 回目が 93.2%で、2 回目が 91.2%で、12 歳以上の 1 回目が 76.4%、2 回目が 57.5%である。市は様々な接種勧奨の広報をしているが、10 月の集団接種の予約枠には空きが出てきており、今後は、若者や接種を迷っている人たちにどのように接種を受けてもらうかが課題である。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

様々な意見を頂いたが、医療体制をしっかりと確保して、この秋冬に備える。またワクチン接種を着実に進めていくということも含めて、今後とも、ご支援をよろしくお願いしたい。

また、県民・事業者の皆様には、引き続き感染防止対策を徹底する呼びかけと働きかけが重要である。ワクチンを 2 回接種した人が増えてきたため終了ではなく、ブレイクスルー感染が増加していくと予想しているため、しっかりと働きかけをしていきたい。

この会議を経て、この後愛知県厳重警戒宣言と厳重警戒措置を関係方面に発出する。10 月 1 日から 17 日までの 17 日間で、厳重警戒宣言で感染防止対策を呼びかけし、10 月半ばには状況を見て、10 月の後半はどうか、ご相談をさせていただきたい。

いずれにしても、第 5 波は収束を迎えているとは思いますが、安心はできず、これからが正念場であるため、またしっかりと取り組んでいきたい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。